

2024年12月期(第119期) 第1四半期 業績概要

2024年5月13日
日東精工株式会社
(証券コード 東証プライム:5957)



2022年3月
健康経営銘柄
選定

2022年3月
なでしこ銘柄
初選定

単位：百万円／％	2023/12 第1四半期		2024/12 第1四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	10,912	100.0	10,717	100.0	△ 194	△ 1.8
売上総利益	2,517	23.1	2,512	23.4	△ 5	△ 0.2
販売管理費	1,841	16.9	1,856	17.3	14	0.8
営業利益	675	6.2	655	6.1	△ 19	△ 3.0
経常利益	748	6.9	711	6.6	△ 36	△ 4.9
税金等調整前当期純利益	733	6.7	716	6.7	△ 16	△ 2.2
親会社株主に帰属する当期純利益	439	4.0	472	4.4	32	7.4
一株当たり当期純利益（円）	11.90		12.93			

決算のポイント

売上高

- 制御事業のエネルギー関連向け分析計測機器や2023年4月にドイツに設立した日東精工アナリティックヨーロッパの欧州向け販売が好調も、ファスナー事業の巣ごもり需要の落ち着きによるゲーム機向け製品の売上減、産機事業の米国・中国・タイの設備投資意欲落ち込みによるねじ締め機などの需要減により、前年同期比1.8%の減収。

営業利益

- 利益面では、資源・原材料高騰を受け販売価格の改定や製販一体となったコストダウンを進めたが、米国・中国経済の減速による受注低迷の影響が大きく、前年同期比3.0%の減益。

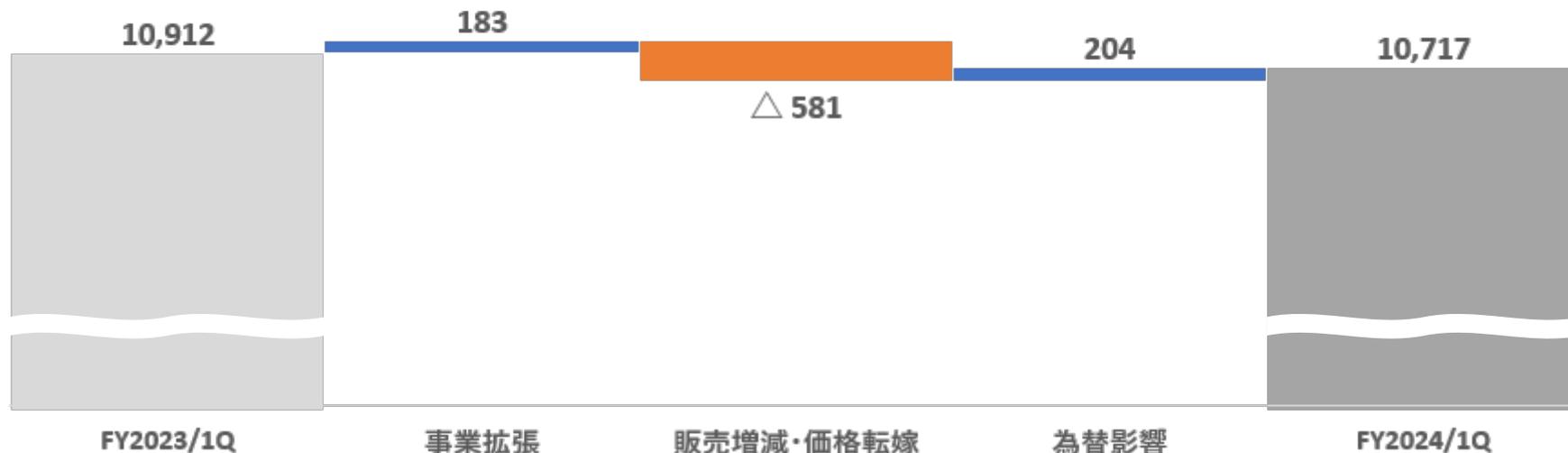
海外

- 海外は、東南アジアの日系家電メーカーの低迷、米国・中国・タイの設備投資意欲落ち込みにより低調に推移したものの、欧州拠点での分析機器の販売が好調に推移し、売上高はやや増。

セグメント別売上高（連結）

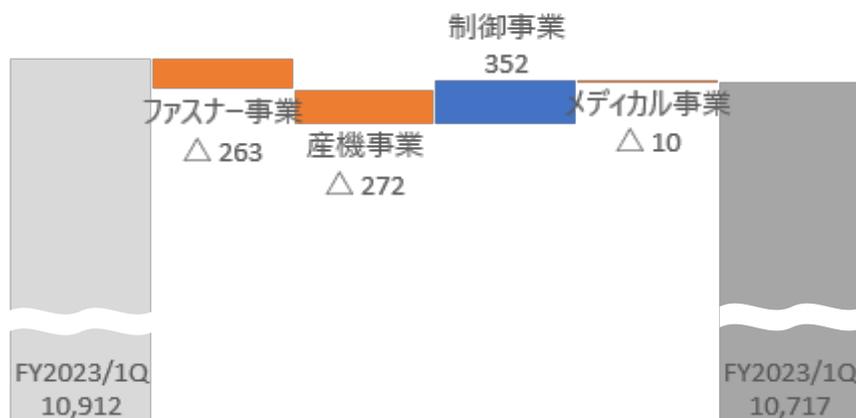
増減要因

(百万円)



セグメント別

(百万円)



事業拡張

日東精工アナリティックヨーロッパ開設が貢献。

販売増減

分析計測機器が好調だったものの、米国・中国・タイの設備投資の落ち込み、東南アジアの家電メーカー低迷の影響で減少。

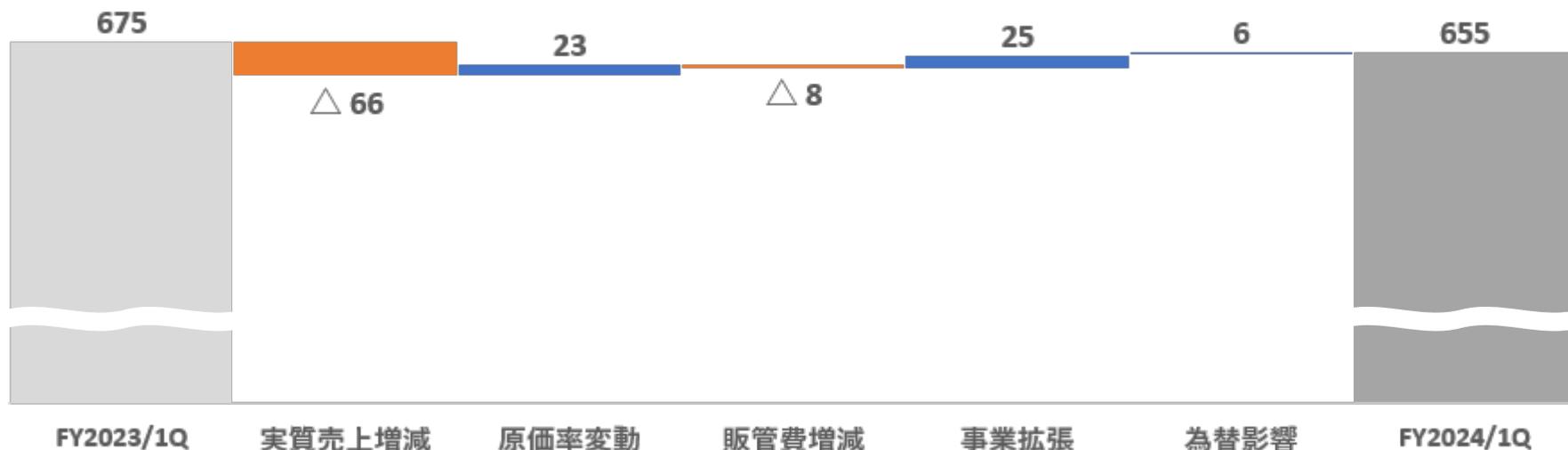
価格転嫁

材料費・人件費の销售价格への転嫁を順次進めているが十分な反映には至らず。

セグメント別営業利益（連結）

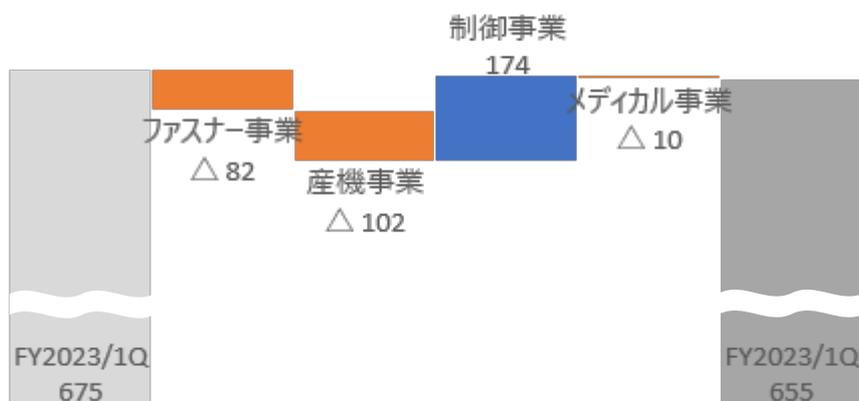
増減要因

(百万円)



セグメント別

(百万円)



原価率
変動要因

材料費・人件費の販売価格への転嫁を順次進めているが十分な反映には至らず。材料費の高騰分は前年比約6.5%（約320百万円）増加。一方、高付加価値の分析機器の出荷が進んだことにより原価率が低減。

原価・販管費
変動要因

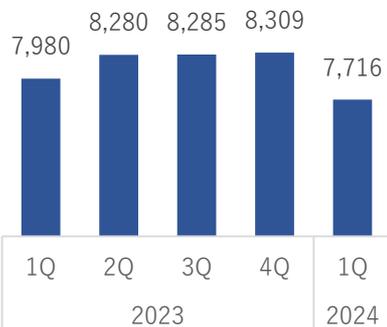
賃上げにより労務費が前年比約0.2%（約3百万円）増加。

事業拡張

日東精工アナリティックヨーロッパ開設が貢献。

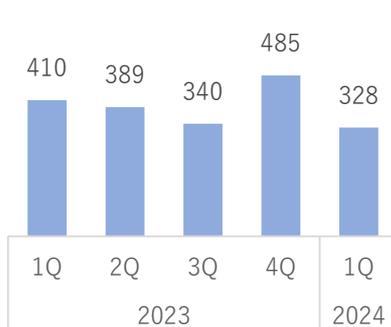
百万円

売上高



百万円

営業利益



概況

- 売上高は、主力の自動車は好調だったものの、ゲーム機市場の需要の落ち着き、欧州・中国での消費低迷により、前年同期比で減収。
- 営業利益は、材料費・エネルギー費の販売価格への転嫁を進めるも十分な反映には至らず前年同期比で減益。
- 製造工場の集約による効率化・原価低減を推進中。

業界別コメント

◆自動車

- 東南アジアを中心にコロナ禍の影響による顧客の在庫調整の余波はあるものの、CASE・EV向けに、オリジナル品のゆるみ止めねじ「ギザタイト」、座金組み込みねじ「アスファ」、締結粉飛散防止ねじ「CPグリップ」、精密プレス製品が好調。軽量化・薄板化に貢献する新製品「JOISTUD(ジョイスタッド)」も拡販中。

◆住宅・建築

- 国内の需要はあるものの、業界の人材・資材不足により伸び悩み前年同期比減。2月に、ばね座金、平座金組み込みボルトから置き換え可能な新製品「カップボルト」を販売開始し現在拡販中。

◆電機・電子部品

- 欧州、中国での消費低迷、東南アジアでの日系家電メーカー低迷により低調に推移。

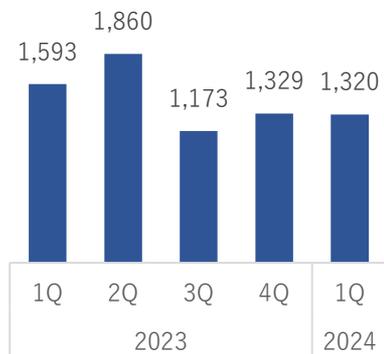
◆雑貨

- 巣ごもり需要で盛り上がったゲーム機市場が落ち着き、精密ねじの売上が減少。

単位：百万円／％	2023/12	2024/12	前年同期比	
	第1四半期	第1四半期	金額	増減率
売上高	7,980	7,716	△ 263	△ 3.3
自動車	3,019	3,257	237	7.9
住宅・建築	1,824	1,733	△ 91	△ 5.0
電機・電子部品	1,192	1,066	△ 125	△ 10.6
IT・情報機器	335	340	4	1.3
雑貨	590	317	△ 272	△ 46.2
精密機器	261	270	9	3.7
医療	71	64	△ 7	△ 10.3
その他	684	665	△ 18	△ 2.8

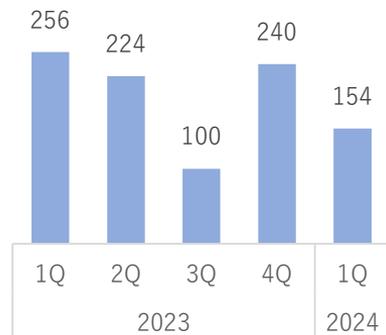
百万円

売上高



百万円

営業利益



概況

- 売上高は、電動化需要、人手不足を背景にした自動化機運が高まるも、米国・中国・タイで景気の後退、政治的要因により設備投資意欲が停滞し、前年同期比で減収。
- 営業利益は、部材や梱包資材の見直し、仕入れ価格のみえる化などのコスト削減を進めるも、特殊機と米国の受注減の影響が大きく、前年同期比で減益。

業界別コメント

◆自動車

- CASE関連のねじ締め機の受注、新車種向け設備の受注は増えつつあるが、米国・タイで設備投資意欲が停滞し低調に推移。

◆電機・電子部品

- 昨年の基板表面処理装置ならびに家電用ねじ締め標準機の大型受注の反動を受け、前年同期比では減。

◆IT・情報機器

- 電子部品実装用基板コネクタねじ締め機の大型受注があり増加。

◆エネルギー

- ガスコンロ・ガスメーター関連の設備受注があったものの、全体としては低調に推移。

◆住宅・建築

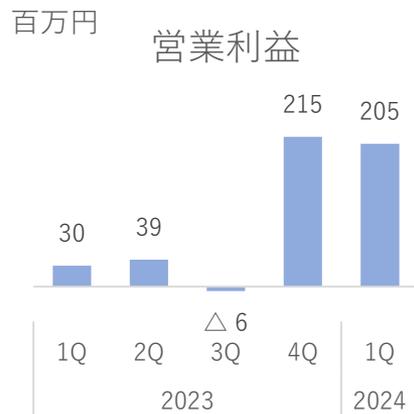
- 戸建注文住宅用ねじ締め装置の更新需要を受け増加。

◆その他

- 汎用エンジン用設備の大型案件、工業用ポンプ用設備の受注があり増加。

単位：百万円／%	2023/12	2024/12	前年同期比	
	第1四半期	第1四半期	金額	増減率
売上高	1,593	1,320	△ 272	△ 17.1
自動車	703	638	△ 64	△ 9.1
電機・電子部品	507	149	△ 357	△ 70.4
IT・情報機器	27	59	32	118.2
エネルギー関連	74	58	△ 16	△ 21.4
住宅・建築	25	43	17	67.5
遊技機	38	33	△ 5	△ 12.9
医療	0	14	14	-
その他	215	323	108	50.0

セグメント別業績概要～制御事業



概況

- エネルギー関連を中心に分析装置が好調。欧州新拠点での販売も好調に推移し、前年同期比で増収増益。
- 新製品開発に加え、原価のみえる化、加工部品の内製化・組立生産効率化、販売価格の改定などを進める。

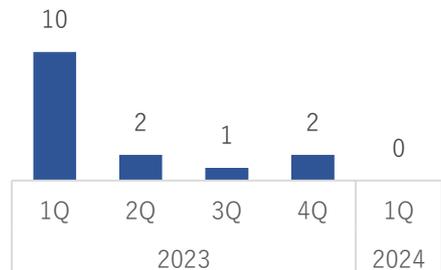
業界別コメント

- ◆エネルギー
 - 硫黄分析装置の大型受注があり増加。石油精製向け更新需要も堅調。
- ◆化学・薬品
 - 欧州新拠点での分析装置の販売が堅調に推移。
- ◆環境
 - 欧州のPFAS規制による有機フッ素の分析需要に3月販売開始した新製品「自動試料燃焼装置 AOF/AQF-5000H」が対応。環境配慮製品への関心からマイクロバブルへの問い合わせ増加中。
- ◆住宅・建築
 - 地盤調査機「ジオカルテIV」は、戸建て住宅着工件数が伸びを欠く影響で低調に推移。
- ◆自動車
 - 検査機、電池材料など抵抗率計の需要が増加。
- ◆造船
 - 海洋開発向け特殊船向け、スマートシップ、ソーラーパネル搭載などの改造案件が活況で今後需要増加見込。
- ◆その他
 - コロナ禍で滞っていた既設品の更新需要が増加。

単位：百万円／%	2023/12	2024/12	前年同期比	
	第1四半期	第1四半期	金額	増減率
売上高	1,328	1,680	352	26.5
エネルギー関連	217	459	241	111.0
化学・薬品	286	302	15	5.4
環境	53	110	57	107.0
住宅・建築	148	102	△ 45	△ 30.9
電機・電子部品	94	97	2	3.1
自動車	53	93	40	75.8
造船	82	92	10	12.4
医療	31	43	12	39.1
食品	12	32	19	150.9
その他	348	346	△ 1	△ 0.4

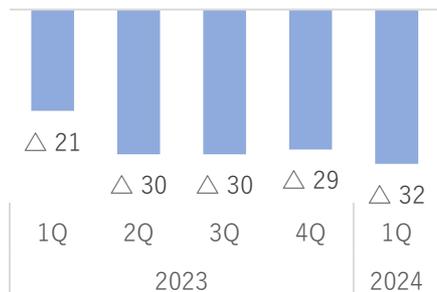
百万円

売上高



百万円

営業利益



概況

- 医療用照明器「フリーレッド」は、コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
- 医療機器向け酸素濃縮器はコロナ禍の終息に伴い販売不振。ヘルスケア向けなど既存の医療業界以外の市場ニーズに応えるべく、拡充を図る。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、2023年6月に国内特許取得。また、すでに主要国へ申請済みの海外特許については順次取得予定。現在は一貫製造設備の整備、非臨床試験に向けた試料の製作、性能試験を進めるとともに、医療用製品販売に向けた許認可取得の準備、品質管理体制の構築など、上市に向けた取り組みを継続中。また、並行して本素材の適用可能性について情報収集を進める。
- 当社既存技術を活かした新たなプロジェクトを始動し継続中。医療機器の拡充を図る。

単位：百万円／％	2023/12	2024/12	前年同期比	
	第1四半期	第1四半期	金額	増減率
売上高	10	0	Δ 10	Δ 99.0
医療	10	0	Δ 10	Δ 99.0
その他	—	—	—	—
営業利益	Δ 21	Δ 32	Δ 10	—

連結貸借対照表

単位：百万円／％	2023年12月期		2024年12月期 第1四半期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	33,822	63.4	33,996	63.4	173	0.5
現金及び預金	8,849	16.6	8,843	16.5	△ 6	△ 0.1
受取手形・電子記録債権/売掛金	12,794	24.0	12,715	23.7	△ 78	△ 0.6
棚卸資産	11,023	20.7	11,432	21.3	408	3.7
固定資産合計	19,521	36.6	19,607	36.6	85	0.4
有形固定資産	14,129	26.5	14,181	26.5	51	0.4
無形固定資産	999	1.9	978	1.8	△ 21	△ 2.2
投資その他の資産	4,391	8.2	4,447	8.3	55	1.3
資産合計	53,344	100.0	53,603	100.0	258	0.5
負債の部						
流動負債合計	12,901	24.2	12,737	23.8	△ 163	△ 1.3
支払手形・電子記録債務/買掛金	8,615	16.2	8,521	15.9	△ 94	△ 1.1
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	1,574	3.0	1,552	2.9	△ 21	△ 1.4
固定負債合計	4,040	7.6	3,974	7.4	△ 65	△ 1.6
負債合計	16,941	31.8	16,712	31.2	△ 229	△ 1.4
純資産の部						
資本金	3,522	6.6	3,522	6.6	—	—
資本・利益剰余金	29,400	55.1	29,537	55.1	137	0.5
自己株式	△ 1,562	△ 2.9	△ 1,562	△ 2.9	0	—
純資産合計	36,402	68.2	36,890	68.8	488	1.3

2. 2024年12月期(第119期)業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

単位：百万円／％	2023年12月期		2024年12月期（予想）		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	44,744	100.0	48,200	100.0	3,455	7.7
営業利益	2,614	5.8	3,300	6.8	685	26.2
経常利益	2,835	6.3	3,500	7.3	664	23.4
親会社株主に帰属する当期純利益	1,734	3.9	2,100	4.4	365	21.1
一株当たり当期純利益（円）	46.95		57.46			

予想のポイント

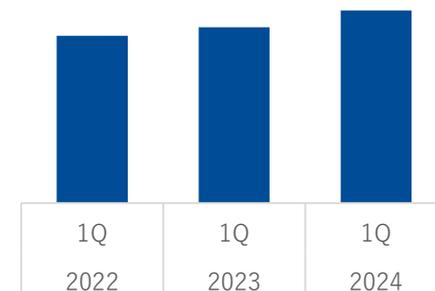
売上高

- 今期前半は、引き続き在庫調整や主要国の経済成長の鈍化、地政学リスクもあり低調が予想されるものの、在庫過多の解消が進みつつある。設備投資意欲も自動車業界を中心に回復基調にあり、今期後半からはグループ全体での回復が予想される。特に自動車業界、雑貨、エネルギー関連業界での需要を見込む。

営業利益

- ファスナー工場の集約、材料費・人件費の販売価格への転嫁、部材の見直し、加工部品の内製化などにより、収益改善を推進予定。

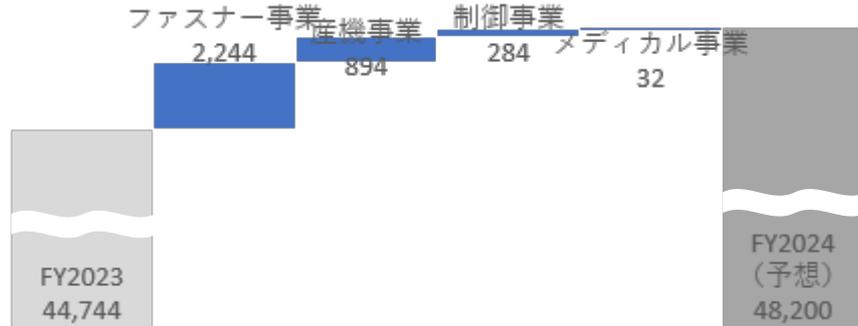
注残の推移



セグメント別売上高・営業利益予想（連結）

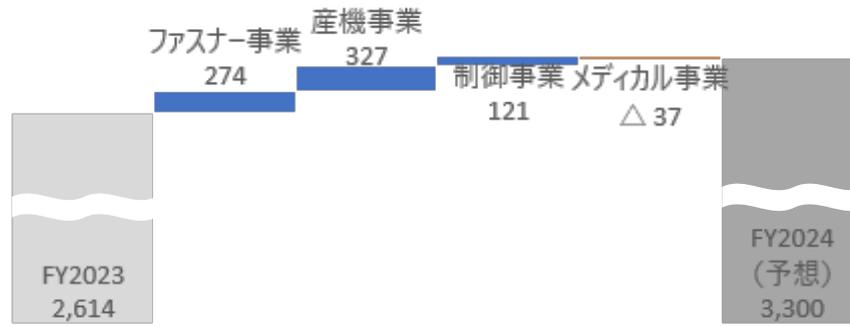
(百万円)

セグメント別売上高増減



(百万円)

セグメント別営業利益増減



事業	主な市場動向		取り組み状況・今後の取り組み	注残の推移
ファスナー	自動車	EV化を背景に車両の軽量化、薄板化ニーズが高まり引き合い増。夏以降に受注増の見込み。	自動車向けに「AKROSE」、 「JOISTUD」シリーズ、住宅・建築向けに座金不要の新製品「カップボルト」の拡販を進める。線材コストの上昇を受け、製品価格の値上げを実施中。また、工場再編をはじめとする製造コストの削減に取り組む。	
	住宅・建築	業界は人材・資材不足気味ながら国内の大型建築需要はあり。		
	雑貨	1月以降～夏頃までゲーム機受注増に期待。		
産機	自動車	CASE関連のねじ締め機、新車種向け設備の受注が回復基調。	標準機の安定受注と並行して、特殊機の受注残が増加。自動車以外で実績豊富な電力計の特殊機案件の受注に向け、生産能力を確保するべく、新たな協力工場の開拓も実施。また、新製品の開発に加え、部材や梱包資材の見直し、仕入れ価格のみえる化などのコスト削減を進める。	
	電機・電子	中国リスクと円安の影響により国内生産回帰。半導体業界の回復により得意とする半導体検査装置の受注が回復基調。		
	エネルギー関連	新電力計の設備、スマートメーターの設備導入が進む見込み。		
制御	エネルギー関連	脱炭素による需要減の一方、SAF等再生燃料、合成燃料などの需要を見込む。	電子材料やPFAS関連需要向けに新製品「自動試料燃焼装置 AOF/AQF-5000H」の拡販を進める。検査機関連の新製品開発に努め、省人化や自動化のニーズに応えていく。加えて、原価のみえる化、加工部品の内製化・組立生産効率化、販売価格の改定などを進める。	
	環境	欧州、米国でPFASの法規制により分析装置の需要を見込む。		
	自動車	インドネシアで溶接鋼管用に部品検査機「MISTOL」を初受注するなど2Q以降検査装置の受注が大幅増の見込み。		
メディカル	開発計画	「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の海外特許を順次取得予定。本製品の製造設備の整備並びに非臨床試験に取り組むとともに、臨床試験の準備にも取り組み、医療機器製品の拡販や新製品の開発に努める。		